

国際交流で高齢化社会の課題を学ぶ「イオン杯」交流会 IN 東京大学開催！

イオンワンパーセントクラブ主催の「イオン杯」交流会 IN 東京大学は、IOGと未来ビジョン研究センターの共催で7月27日に開催。少子高齢化の課題と対策に焦点を当て、国際的な視野で活発な議論が行われました。中国の清華大学や海洋大学などの訪日研修生34名、法政大学・イオンスカラシップ生2名を含む計42名が参加しました。

【プログラム内容】

前半は「日本の少子高齢化がもたらす課題とビジネスチャンス」をテーマに、総論：日本の少子高齢化&課題、健康寿命延伸の取り組みとフレイル予防・地域実装、ジェロントロジー産学連携、食の在り方研究会については、孫特任講師、田中友規特任助教、田中康夫研究員、倉田研究員が、イオン東大里山ラボについては、未来ビジョン研究センターの山木特任研究員が講義を行いました。

WINGS-GLAFS2名の学生(呂偉達、楊映雪)も参加し、自分の留學生活と研究生活について説明しました。グループディスカッションにも参加し、学生同士の交流を深めました。

後半は学生達とグループディスカッションを行い、日本の高齢化社会における課題とノウハウを踏まえて、母国である中国にどう活かせるかについて活発な議論・発表を行いました。

【WINGS-GLAFS 学生からの感想】

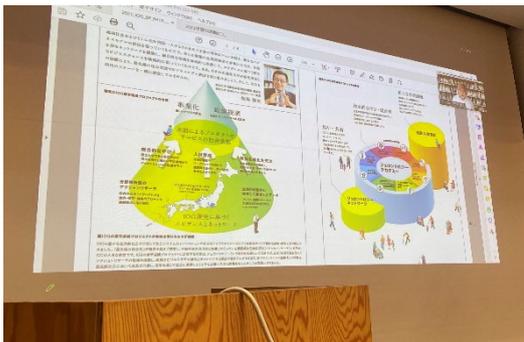
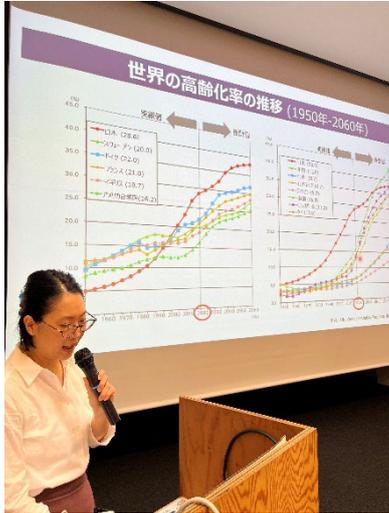
グループディスカッションの際に、学生同士が相互理解を深め、中国の学生から高齢化社会に対する理解と国際連携の重要性を改めて実感したというコメントは印象的でした。また異なるバックグラウンドを持つ学生たちのアイデア交換は刺激的であり、国際的な視野を持ちながら解決策を模索する姿勢に感銘を受けました。これらのディスカッションを通じて、共通の関心と協力の意欲が強まったと言えます。

【産業側からの感想】

今回、産業界としては、フレイル予防産業という新たな産業を生み出すことを目標として実証事業を行っていることを紹介いたしました。フレイル予防には、「栄養・身体活動・社会参加」の3つの取り組みが重要であることがわかっております。しかし、フレイルの認知率は決して高くはなく、「フレイル予防」と謳っただけで商品が売れるわけではありません。消費者に正しいフレイル予防の知識を身に付けていただきながら、適切な消費行動をしていただけることが重要であることを伝えました。

これから中国でも少子高齢化が大きな社会課題となってくることが予測されます。今回のプログラムに参加いただいた学生の皆さまには、交流会で学んだことをぜひ母国に持ち帰っていただき、社会性と経済性を両立できる新たなビジネスモデルを構築していただきたいと思っております。

前半の講義の様子



後半のグループディスカッションの様子

